friendship force HIROSHIMA
Newsletter Vol. 7

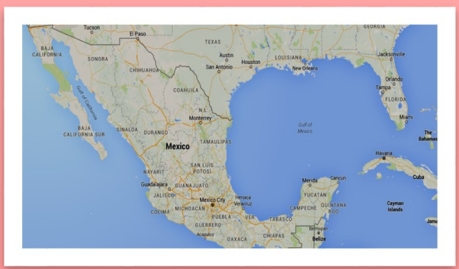
2016年度FF広島の取り組み

会 長　弓手 博

　会員の皆さまのおかげで、昨年度の交換はインバウンド、アウトバウンドともにこれまでで最も充実したものになったと感じています。それは、おそらく日本文化の体験と異文化交流への積極的参加によって、会員仲間はもちろん老若男女の非会員ともどもFF3つの価値（Explore探求, Understand理解, Serve奉仕）を共有する活動の場面が生まれ、「新しい出会いを楽しむ」ことができたからだと思っています。
　今年度も皆さまから一層の積極的なご参加とご協力を得て、これら3つの価値をさらに3Ex’s（Explore新しい価値の探求と創造　Express日本語・英語による心表現　Exchangeトモダチとシェアーするチカラとチエ）にまで高められるような「魅力ある交流プログラム」をプロデユースしていくつもりです。
　そのための第一歩として、今年度は我々日本人がグローバルな視野をもってそれぞれの大きな夢と理想を実現できるように、地球全体に広がるＦＦコミュニテイーを我々にとっての「生涯学習・学びの共同体＝Learning Community・テーマパーク」になるよう内外に積極的に働きかけをしていく年にしたいと考えています。
　皆さまからのご指導ご鞭撻よろしくお願い申しあげます。　The more, the merrier.

　なお、今年度FF広島の渡航による交換は、New Zealand　北島FF New Plymouth クラブに滞在して5月18日（水）～5月28日（土）まで行います。また、受け入れによる交換は、Mexico FF Coatepec クラブをFF広島にお迎えして10月4日（火）から1週間の予定で行います。

写真(Googleより)
上3枚・5月渡航先ニュージランドFF New Plymouthクラブのあるnew Plymouth市（北島）
下2枚・10月受入れのメキシコ FF Coatepecクラブのあるベラクルーズ州Coatepec市（カリブ海側）



【ラスベガス他クラブ受入レポート】

２０１５年１０月７日～１４日
ラスベガス・バーミンガム他４クラブ１９名受入

１．アンバサダー及びホスト

Ambassadors	Hosts	Ambassadors	Hosts
Susan & Michael Boyko	桑田慎一、加代子	Stephanie Sorensen	久田悦子
Judy & Floyd Wilson Davis	弓手博、素子	George Webster Terrell, Jr.	小川徹、治子
Diane & Lee Morton	猪原俊郎、生恵	Callie & Gerald Waldrop	李月娥、張峰
Lois Ann DeYoung	延広正行、路子	Susan & Ronald Williams	谷口昌史、悦子
Carol Grotewold	延広正行、路子	Lorraine Helen Cleveland	竹内征治、佳代子
April Violet Watson	高田俊子、浩幸	Deanne Marie Yvonne Kondrat	竹内征治、佳代子
Irene Wells	高田浩幸、俊子	Regina M.Smith	島崎京子、高志

２．交換行程表

10月７日（水）
鳥取よりチャーターバスで到着
（広島地区/福山地区ホスト全員で出迎）
福山地区
福山駅到着後、城址公園経由福寿会館へ移動、挨拶、ホストファミリーとマッチング、オリエンテーション
を行い各ホスト宅へ移動、読売新聞の取材
広島地区
広島市留学生会館到着。 挨拶、ホストファミリーとマッチング、オリエンテーションを行い Welcome Pot LuckDinner

10月８日（木）
福山地区
午前:フリータイム
13:00 JFEスチール㈱西日本製鉄所(福山地区)見学
16:30～20:00 赤坂中組倶楽部で餅つき,
WelcomeDinner、山陽新聞取材
広島地区
午前マツダミュージアム見学、駅前福屋へ移動
フードコートにて昼食、午後いけばな小原流展見学

10月９日（金）
福山地区
午前:フリータイム 12:00 欧風亭で昼食
13:30 鞆中学生と合流し生徒の案内で鞆の名勝、旧跡を英語でガイド、中国新聞取材
16:30 解散
広島地区
熊野町竹宝堂見学、”アイリス”と昼食・交流

10月10日（土）
福山地区
10:00 しまなみ海道経由平山郁夫美術館訪問
12:00 尾道駅前“Harbor Café”で昼食
千光寺公園散策後ホストと自由行動
広島地区
フリーデイ

10月11日（日）
福山地区広島地区ともにフリーデイ

10月12日（月）
福山地区ステイの12名が広島へ移動
（広森、神森、三島、猪原が広島迄引率）、
10:30 アステールプラザへチェックイン広島ステイのアンバサダーと合流
11:00 原爆死没者慰霊碑参拝、献花
13:00 ボランティアによる被爆体験記・詩の朗読会、ピーストーク（森川FR）
17:30 お好み焼き村で夕食

10月13日（火）
宮島観光
（往路）10:10 広島世界遺産航路クルーズに乗船し宮島着11:00
（復路）14:30 宮島発（フェリー）⇒JRで広島へ
18:00 リバーズガーデンでお別れ会、福山地区9名、広島地区13名、アンバサダー19名計41名参加

10月14日（水）
それぞれの目的地へ移動

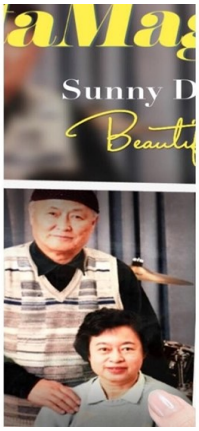
３．ホスト感想文

今回の受け入れでは、EDのJudy Davisと夫君Floyd のホストをさせていただきました。これまでも毎年交流を楽しんできましたが、なかでも今回は最も思い出深い心の交流になったと感じています。話好きなお二人だったので毎晩遅くまで本音で談笑することができて良かったのと、あのように幸せそうな典型的シニア・カップルから、汗と涙の人生いばらの道の波乱万丈と哀しみを、ユーモアたっぷりの精神的しなやかさと強靭さで跳ね返す二人のチカラとチエに圧倒されたからです。

Judy の餅つき

Walk & talk with the townspeople of Tomoでお世話になった鞆中学校だけでなく、多くの若者もアメリカにステイしながら学ぶことができるよう、SALE (Stay-America, Learn-English セール)を企画し広く FF オール日本と FF オールアメリカに提案しようということになりました。（弓手 博　素子）

今回初めて FF広島でのホームスティの受け入れを経験しました。英語は堪能ではありませんですが、いろいろの人の助けと心の触れ合いに気をつけて楽しい時間を共有できたと思っています。滞在日程に詳細の日程表が作成してあったので、安心してホームスティの計画を事前に練ることができてありがたいと思いました。



アンバサダーの Georgeさんも自分の旅の目的をはっきりおっしゃっていただいたのも 行動する上で大変助かったように思います。早くからの計画が立ててあったので、先方からの要望事項にも時間的余裕を持って対処できたのが、今回の成功裡に終わったおおきな要因のように感じます。弓手会長、廣森ED、猪原事務局長その他メンバーの皆さんの助力を頂いたことに謝してこの報告書を終わらせて頂きます。貴重な体験を皆様大変ありがとうございました。　（小川 徹　治子）

日頃はときどき日本人のホームステイを受けていますが外国人の受け入れは初めてのことでアイリンのアレルギーに心を痛めましたが無事お送りすることができ安心して おります。言葉は話せなくても心をしっかり理解していただけたことはとてもありがたく、良い思い出をたくさん作ることが出来ました。

毎日の散歩、グループホームでのお年寄りの方々と体操や折り紙お琴や三味線を弾いたり、流しそうめんをしたり近隣の方々との交流の中で手作りのスカーフや布ぞうりや手さげ袋などたくさんのお土産をいただいてとても喜んで帰られましたことは何よりの思い出になりました。 大変貴重な体験をさせていただいたことを心から感謝致します。　（高田浩幸　俊子）

【ホストをしての感想】

今回、ウエスコンシン州よりの女性の方をお引き受けしました。こちらでは家族の一員としての生活を望んでおられたので、天ぷらや酢の物など一緒に作ったりして堅苦しくない普段着の家庭生活をしていただきました。 日本の歴史、政治にも興味を持っておられましたが私の英語力の無さから十分な説明ができなかったことが悔やまれます。ただ、人と触れ合うことの素晴らしさ、大切さを改めて感じることができました。今回も貴重な経験をさせていただき有り難うございました。（久田悦子）

今回のホストで、ちょっぴり驚き羨ましかったこと。ハニー! ハニー(*^_^*)…なんていい響でしょう。Michael.Suzan Boyko 夫妻は会話のたびにハニーをつけていました。 又、手をつないで歩き、まるで映画の中のようでした。私も日本ではちょっと恥ずかしいので、来年2月にマレーシアに行きますので恥ずかしがらずに手をつないで歩きましょう。Boyko 夫妻が到着した夜は我が家の Welcome Dinnerで外でバーベキュー。息子 夫婦、娘夫婦、孫たちと多勢で楽しみました。孫たちは挨拶を英語でしたらあとは大はし ゃぎ。Michael.Suzanもアルコールも入って大騒ぎ。最後の夜はお祭りの前夜祭に行き、孫の晟一郎のハネ踊りを見物。坪生のお祭りにアメリカ人の夫婦が来たので、近所 の人もビックリ! Boyko夫妻も黄色の手拭いをかけてもらい仲間入り。バーベキューも二回しましたが、Boyko 夫妻も自宅では週 3～4はするとの事。非常にいい経験をした ことを、家族全員喜んでいます。

（桑田慎一　加代子）

【ロアスさんとキャロルさんを迎えて】

″Wonderful and Joyful time in your home″ のことばを残してホームステイが終わ り、ほっとしているところです。テンプルステイを期待していた彼女たちを満足させられたかどうかはわかりませんが、今回のホームステイは集合時間がゆっくりしており、 朝もゆったりと交流し、過ごすことができました。巨大なＪＦＥの製鉄所、鞆の素敵な ランチ、中学生の案内による散策と交流、しまなみ海道のドライブ、そしてフリーデイ の神勝禅寺散策と瀬戸内海を眺望できるホテルでの豪華なサンクスランチ、そして「琴の教室」を見学してもらいました。 あまり盛りだくさんではなく、お互いに気楽に交流で来たと自分たちは満足しています。それぞれの家庭で事情は異なると思いますが、 フリーデイが２日あればさらに個性的なステイができるかもしれません。 最後に、Ｆ Ｆの皆様の企画、協力で楽しく過ごさせていただきました。有難うございました。　（延広正行　路子）

今回はラスベガスクラブの Dianne & Lee Morton 夫妻を受け入れました。 お二人はまだ現役の核廃棄物処理にかかわるエンジニアで FFの交換（渡航）は初めてのことでしたが木工細工が趣味で木造の我が家に使っている材料や木製の家具に大変興味を示し、毎晩のように木の話をし、先方からの土産は FFのロゴをレーザーカットし 日本語で“友情の力　福山”と書いたFF のロゴ入りのプレートをいただきました。最初の二日間は自ら趣味で木工細工をされている神森さんも加わり木工談義に花を咲かせました。フリーデーには近隣の潮崎神社の祭りや履物資料館に行き、ゆったりと自由時間を過ごしました。特に初めて見る日本の祭り、神輿や山車に大変な興味を示し矢継ぎ早の質問に答えるのにたじたじでしたが幸い神社総代の知人が居合わせ助かりました。決して充分なおもてなしはできませんでしたが、後日心温まる長いお礼のメールをいただきました。今後ともメールでの交流を続けたいと思います。

（猪原俊郎　生恵）

【St・ルイスからのゲストをお迎えして】

Susan・Williamご夫妻をお迎えしました。今回は、竹迫さんの協力を得て二人三脚の一週間でとても助かりました。マツダ工場と筆工房の見学にでかけましたが、ものづくりの先端企業と伝統的産業といった対照的な組み合わせも、再発見するものが ありました。William は、St・ルイス市について地図や本を広げて、町のことを一生 懸命話してくれました。アメリカの都市と聞いても、余りに大きすぎていったい何がどこにあるか覚える気にならなかったのですが、今回、ミシシッピー川、ミズーリ州 等の位置を知り、アメリカ中央部の地理がちょっと頭に浮かぶようになりました。 ニュースで見る竜巻や洪水もよく起きる地域だそうで、以後、ニュースを身近に感じ られそうです。また、彼らは「自分たちの両親、計４人はヨーロッパ、それもそれぞれ違う国出身。だから自分は何系なんてわからない、孫は母親がフィリピンなのでもうどういうんだろうね」と笑ったのが印象的でした。生活、文化の違いや関心事の共通点を発見して、おもしろかったです。

松本Co-Edさんの計画や心配りがすばらしく、おかげさまで日程を順調にこなすことができました。

広島FFメンバーの皆様のご協力をいただき、ありがとうございました。そしてまたもや、言いたいことが話せるよう英語力がほしいなあと思いました。　（谷口昌史　悦子）

この度、私がホストしたのは、長年アメリカに在住しているフランス人でした。 彼女は見た目も小柄で、性格もアメリカ人特有のおおらかさがなく、職業はインテリアデザイナーなので芸術家のような繊細さと鋭い観察力がある方でした。 一方、東洋人みたいなシャイなところもあり、英語を喋ってもフランス語のアクセントが残っていて、私にとって、とても不思議な交流でした。しかし、柔軟な対応をすることはホストのつとめと考え、できるだけのことを頑張りました。
day hostの山本さんと松本さんにいろいろ助けていただきまして、心から感謝申し上げます。　（島崎高志　京子）

我が家のアンバサダーはカナダからの女性二人ディアンヌとロレインでした。フレンドシップフォースでの渡航だけでなく、二人だけでの旅行もよくするそうで、今回も上海 から広島空港経由で鳥取のホームステイに合流されました。そういうわけで、広島ホームステイの1週間前、彼女たちが広島を経由して鳥取に向かう際に、会っていち早く親交を持つことができました。旅慣れた方々なので、お互いに意思疎通に困ることもなく スムーズな楽しい交流ができたと思います。フリーデイの午前中は瀬戸内海の美しさを 知ってもらうため、蒲刈島までドライブし、朝鮮通信使の博物館など見学しました。また自宅近くの神社の秋祭りにも足を伸ばし舞台の出し物、屋台など昔から続く日本の風景に親しんでもらいました。私もその舞台に上り日本舞踊を踊るのを彼らに見てもらいました。
今回受け入れ期間は今までのより少し長めでしたので、食事の準備など苦労する面はありましたが、アンバサダーとの交流は十分できたと思います。　（竹内征治　佳代子）

この度ホストになるのは私は初めての経験で、英語もできない私達は最初は不安でしたけど、森川さんはじめ、皆さんが協力して下さって、とても素晴らしい経験できました、ありがとうございました。
ゲストの Gerald さんと Callieさんはとても素敵なご夫婦で、言葉はあまり通じなかったけれども、何となく、感覚が通じて、人間って素晴らしいですね！Friendship Force はもっと素晴らしいと思いました。本当の意味の国際交流と感じました。 関わってくださった皆様に心から感謝しています。　（李月娥　張峰）

【愛すべきジョージ】

アラバマからやって来たジョージは、私が初めて会った本格的なコレクターだった。何しろ、「風と共に去りぬ」（通称”GWTW”）関連のものなら、読めない日本語で書いてあろうと、新潮文庫や岩波文庫など全集５冊を何セットも買ってしまうのだから。
私の現在の夢は、 もう一度、学校に通う生徒になること。「自己満足に過ぎない、そんな年では卒業しても社会に還元できるものがない」という冷静？な社会の目に二の足を踏んでいる。でも、 ４０年教職についた彼に言わせれば、私はまだ、「ひよっこ！」。何しろ彼の最高年齢の 生徒は、１０５歳だったから。18歳の生徒より、自腹を切って通学する初老？の生徒の方が意欲があって、much better！だって？ジョージを支える人は、沢山いそうだ。なにしろ、彼の最初の授業に出席した生徒が、その 40 年後の最後の授業にも出席したそうだし、空港まで送ってくれた友達が、おみやげは「招き猫」だけでいいよと言ったそうだし。ジョージは、GWTWと同様、これからも皆から永く愛されるだろう。　（酒井かよ子）

ご協力ありがとうございました！

CO-ED 松本浩子

今回私は COED という立場で受け入れに参加しました。初めての体験でしたので、不安でいっぱいでした。皆様のおかげで、無事に終えることができホッとしています。広島や日本を知ってほしいと思いましたがいざどうするか考えると、自分自身が知らないことが多いと実感しました。

一番残念だったのは、原爆資料館見学でした。ここは広島では是非見て感じていただきたいところです。ところが工事中でせまく、おまけに修学旅行生と一緒になり芋の子を洗うようでゆっくり見学できる状態ではありませんでした。マツダミュージアム・熊野町の筆つくり・宮島等の見学、お好み焼き等楽しんで頂けたと思います。

また、熊野町で昼食・歌・踊りで交流したグループからとても良かったと喜んでもらいました。

アメリカやカナダから同世代かそれ以上の方たちがいらっしゃったのですが、とてもお元気でした。私たちももっともっと元気で交流したいものです。

ED　廣森彌生

今回、初めてＥＤを務めました。私にとって忘れられない思い出となりました！

２０１４年８月７日（木）から、ラスベガスクラブのＥＤ, Judy Davis と Exchange Program #12261 についての交信を始め、２０１５年１０月７日（水）に、ラスベガス、 バーミンガム、カリフォルニア、ウイスコンシン、ミズリー、カナダから総勢１９名の Ambassador を迎えるまで、大変長い取り組みでした。その間、弓手会長、猪原事務局長 さんを始めとして、Co-EDの松本さん、ホスト、デイホストの方々には大変お世話にな りました。皆さまのご協力のお陰で、素晴らしい交流行事になりました。心より感謝申しあげます。

福山地区に１２名、広島地区に７名の Ambassadorをお願いし、それぞれの地区で創意工夫をした交流プログラムを作り、最終日の２日間は、全Ambassadorがアステールプラザに宿泊し、平和公園、宮島を巡り交流を深めました。Farewell Party では、最後に参加者全員が手を繋ぎ、Friendship Force の歌を歌い、友情を誓い合いました。これこそが Friendship Force の Mission！「感動！」の一言に尽 きます。

交流状況（福山イベント）

米交流団体12人 福山など散策

国際団体が招待

国際交流団体「フレンドシップフォース広島」（本部・福山市）の招きで、米国・ネバダ州などの関連団体に所属する12人が7日、福山市を訪れ、同市丸之内の福寿会館でフレンドシップフォース広島の会員たちから歓迎を受けた。

12人は、9月30日に来日。鳥取駅で観光などを楽しんだ後、同市に到着した。11日まで会員宅にホームステイして、同市・鞆の道市などを散策し、9日は広島市の平和記念公園などを見学する。

12人は、同団体の会長らと歌うなどして自己紹介。初来日とイアン・モートンさんは「私が住むラスベガスと違い、福山は緑がとてもいいのが印象的。平和園で、原爆の悲惨さを学びたい」と話した。

歌で12人を歓迎するフレンドシップフォース広島の会員たち（福山市で）

読売新聞記事

（８ページへ続く）

2015年(平成27年)10月9日 金曜日 備後1 24

備後版

山陽新聞デ

http://www.sanyo

FF広島招待 福山訪問中の米の12人

餅つき通し市民と交流

夕食会 日本料理開み歓談

市民レベルの国際交流 語教授、米会話を習う 教室、できたての餅を 携帯の絵ピ「フレン 主婦や国際交流に関心 ドシップフォース（FF） 会員で組わった、夕食 のある40～70代の男女 会には手作りでもてなし や市 FF広島 の一行が福山市内 約30人。FFスペガ 関きなど日本料理を楽 スからは60～70代の男 会員らが8日、来福か 女性12人が7日から福 ら招いている姉妹団体 山を訪れている。 ・FFスペガスのメ 歓迎会を開き、石田 ンバー一行と、関市赤 長64は「日本の伝統 坂町出身の事業所で餅 文化を体験してきてよか 作を使った餅つきをFF ったら、日本についても ウスペガス一行が挑 っと深く知ってほしい」 戦。市内観光の名ほど と話し、各好感隆 めて「帰りたい」と話し 市内会員は元気に笑 ていた。

一行は市内観光に 、FFは力 ホームステイ、9日 大統領の 法勝の清水寺、10日は 尾道市散策を実、11日は 7年に発 まり、福山に滞在する。 を はじめ 12日から広島市を訪 約380 れ、平和記念公園など 相互交流 を通って11日に福山市 する。（関

餅つきに挑戦するFFスペガスのメンバー

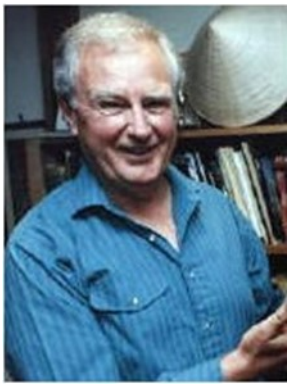
山陽新聞記事

交流状況（広島イベント）

フィールド レップ 雑感

森川高明
前FFI フィールド リプレゼンタティブ 西日本担当

FF創始者　ウェイン スミス



2015年の終わりに当たり、FFI フィールドレプレゼンタティブとして感ずるところを述べてみたいと思います。

ご存知のように、FFI フィールドレップは、FFI と同じ価値観を有するその地区の代表者であると同時に各クラブリーダーへのアドバイザーとしての2つの顔を持っています。私は、この2年間、中国・四国・九州の8つのクラブを担当してきました。

さて、直近のFF広島の会員名簿を見ると、新しい会員さんが可成り増えたことがわかります。こうしてFFの仲間になったきっかけは個々に違うと思いますが、ひとたび組織に入ったら、FFの理念や目的、その発祥や38年間の歴史（レガシー）を理解することはその後の活動に必ずやプラスになると信じています。これは、フィールドレップとして、常日ごろ考えていることの一つで、これまで、西日本のリーダー達と本音で話す中でも、そのレガシーの部分が欠落していることがわかりました。そこで、関連する資料の収集、元FFI会長、ジョージ ブラウンさんからのアドバイスなどで多くの参考資料を作り、西日本だけでなく希望する国内クラブへも配布し、活用してもらいました。本日は、紙面の都合上、FFの理念の誕生について3つのお話しをします。これは、創始者・ウェイン スミスと長い間ともにFFのために働いた、ブラウンさんへの私からの質問の答えです。

1つ目は、FFの理念がブラジルで生まれたきっかけを尋ねました。長老派教会の聖職者となった29歳のウェイン スミスは、1963年から1970年の間、宣教師として家族とともにブラジルで過ごしました。当時のブラジルは、貧困や差別という、途上国特有の様相を示していましたが、彼は、多くの人々と友人となり、互いに家庭を訪問する中で、その国を知るには、唯一、個人の友情を通じた理解によるところが大きいことを悟りました。一方、多くのアメリカのビジネスマンや政府の代表者たちが、ホテルや立派なお屋敷に住んでいながら、地元の人々を理解していないことを見てきました。こうした彼のブラジル体験を通してみた、途上国の貧富の差や社会的差別、それを取り巻く大国の傲慢さや不条理が、後のFF理念の礎となったに違いありません。

2つ目は、ウェイン スミスの言う「平和」とは何かを尋ねました。「戦争」の反意語としての「平和」を意味したのではなく、ブラジルでの体験から、不条理の無い世界を「平和」と考えたと思われます。なぜならば、彼が「友情」と「平和」を関連付けたのは後のことと言われています。生前、彼は、『嘗ての米ロを分断していた鉄のカーテンですら、アメリカ人とロシア人がお互い理解した結果、取り除くことができたように、いま、同じようにイスラエルとパレスチナの間にも互いの理解が必要です』、と国家間の紛争に対しても友情と理解が解決に導くことを述べています。FFの最初のスローガンは、"Peace through Friendship" でしたが、後にそれは、"A world of friend is a world of Peace" に変わりました。意味するところは同じことを言っています。

3つ目は、ウェイン スミスが生きていたら、私たちに何を示唆するかを尋ねました。私の質問に対するブラウンさんからの答えは、『世界を「平和」に導く者は、外交官や友人作りに長けた人物である必要はなく、あなたが新しい友人を作ることが、「平和」への道を開くことに繋がるのです。まさに、"You can make a difference" を信じて実行することが重要です』、というものでした。世界のFF会員一人一人が、何かを変えて欲しい、という創始者・ウェイン スミスのメッセージであると私は受けとめました。

これに加えてブラウンさんは、ウェイン スミスと過ごした長い年月から導いたこととして、次のように言っています。『 **今日、日本と中国の人々の間に緊張と不信感が続いています。FFを通じて多くの日本人と中国人がお互いを理解しあえばどんな良い結果が出るか考えてみてください** 』、と。

（編集部註： 森川フィールド レップは１２月末付けでその職務を降りられたことをお知らせします。）

第7回全国大会報告　　事務局長　猪原俊郎

2015年9月17日岐阜市で開催されました第27回日本大会に神森理事とともに出席しましたので概要を報告します。大会にはＦＦＩのPM Maryam Jordanさん、および東京のPM金元勅子さんを迎え全国24クラブから216人 が出席しました。

大会のテーマは“清流の町でFFの未来を語ろう”で主に今FFIが直面している問題につき現状の報告とFFIの対応方針が述べられ参加者全員が共通の認識に立って議論しました。

FFは交換アンバサダー数の減少と交換数の激減により財政不安に陥り、会員から寄付を募ることに加えE-membership［オンラインで会員を募集］Fill-the-seat- policy〔出発前100日に定員に満たない場合ネット募集〕等が提案されていますがいずれも対症療法であり、すでにこれらの対策にかかる問題が表面化している部分もる為、率直且つ真摯な意見交換なされました。

FFの継続的な発展を図る為には単に収入を増やす為の小手先の対策ではなく抜本的な対応策が必要で今後も折に触れ意見を具申していきたいと思います。

第17回西日本ブロック会議報告　　会 長　弓手 博

2015年西日本ブロック会議は11月6日（金）7日（土）大分県「久住高原荘」で開催。FF広島から会長の弓手博、事務局長猪原俊郎、川嵜武博の3名参加。FFI本部プログラムコーデイネーターの金元勅子様、西日本FR森川高明様も参加。冒頭、FF大分大塚邦彦会長の開会のお言葉、来賓のFFI金元様、土居大分県議様、首藤竹田市長のご挨拶がありました。

続くブロック会議は、第一部では西日本FR森川高明様の講演でフレンドシップフォースの起源、第二部ではFFの活動（各クラブからの活動報告、次年度の開催クラブ決定など）についての意見発表と情報交換が行われました。

そのなかで特に、次年度の西日本ブロック会議はFF熊本で、2017年度はFF広島での開催を決定。さらに、新企画としてED中央研修をFFIが主宰、その第１回を2016年1月東京で実施。猪原事務局長と会長の弓手への講師依頼がありました。

【写真】 左からFFI 新会長・CEO Jeremi Snook氏、FF大分会長の大塚邦彦氏、
音楽のタベ（FF大分田部副会長のフルート演奏）、西日本ブロック会議の様子

編集後記

Newsletter 第7号をお届けします。昨年のFF広島の活動を中心に編集しました。また、森川高明さんに、FFIフィールドリプレゼンタテイヴ西日本担当を辞するにあたって,お忙しい中、原稿を御寄せ頂きました。

今号から、Newsletter編集委員を、中垣健一様に替わり、小川正樹が担当することになりました。中垣様には公務で大変お忙しい中、原稿、写真の割り付け、校正など大変難しい分野をお引き受け頂き、初版から第6号まで発行することができました。中垣様のご尽力に、会員一同心よりお礼申し上げます。　　（ 編集委員　廣森彌生 ・ 松本浩子 ・ 小川正樹 ）